

## アカシアの家 ファンハウス 開設祝賀会 挨拶

(2022年4月29日) アカシア会理事長・大場敏明



挨拶  
医療法人アカシア会  
理事長 大場敏明



ご挨拶  
三郷市  
副市長 石出 弘様



ご挨拶  
医療法人財団健和会  
理事長 露木 静夫様



施設長 寺田 慎  
挨拶と職員紹介

「その人らしい生活と人生をつなぐ」認知症ケアネットワーク形成の原点としてのアカシアの家 開設から19年「認知症の新時代」を切り開く、当事者・本人参加のもと地域とも協同で建設したアカシアの家 ファンハウス 開設へ

本日の記念式典に、ご参加いただきまして、真に、ありがとうございます。

22年前の風薫る5月(2000年/平成12年)、ここ三郷市早稲田の地で「地域に根ざした医療を進めていこう」とクリニックふれあい早稲田を開設し3つの理念で、地域医療に邁進してきました。

そして19年前の2003(平成15年)7月、三郷市第一号の認知症GH・アカシアの家を開設して認知症介護事業に取り組みだし、その後 居宅介護支援事業所ふれあい デイサービス/ふれあい倶楽部 小規模多機能/えがお デイサービス和顔施を開設してきました。そしてこのファンハウスで 6事業目の介護事業所となります。

アカシア会は、法人創立21周年の今年、未だかつて経験したことのない4事業(福祉3事業、介護1事業)の移設・新設の、同時並行的建設に取り組んでいます。

1月に「就労移行支援事業所・ラポルタみさと中央」移転開設、そして4月に地域活動支援センターから移行の「就労継続支援B型」パティオの開設、5月に認知症GH「アカシアの家 ファンハウス」の開設、さらに7月頃予定の「シェアハウスこかげ」の共同生活援助(障害者GH)への移行です。

この4事業は、2年来のコロナ禍での困難な中、法人あげて取組んできたものですが、この「アカシアの家 ファンハウス」開設は、意義・構想としても、また規模としても最大限の事業として介護部全体とクリニックと法人の大きな力を傾注したものです。

その意義の第一は、当事者/本人の参加もえて、構想から設計へとすすめてきた、本人・家族・地域と協同して建設したことです。今求められる 本人参加・主体の認知症新時代に応じたGH建設としては、おそらく三郷初のみならず埼玉あるいは日本初ではないかと自負している事業であります。(時代の要請にたった取組み)

そして第二の意義は、若年性認知症の人も利用したくなる GHを意識したことです。居室の構造(一部にトイレ・洗面所を併設した)、開放的な共同スペース、そして農作業なども取り組める広い敷地を活用したものです。この地域には、認知症の方が増え、若年性の方も増えてきており、GHの利用希望が広がっている中での事業です。(地域の要請にたった取組み)

21世紀の20年代に入った今、クリニック開設の3つの理念(①地域の皆さんのホームドクター・②高齢者/障

害者に安心なクリニック・③健康管理/健康増進を一緒に)とアカシア会の基本理念「その人らしい生活と人生を支える」を引き続き中心にすえ、「ともに歩む」実践的視点を貫いて、アカシア会は、全職員一同、切磋琢磨しあい励ましあいながら、皆さま方と引き続き固く協力し前へ歩み続けて、たとえ認知症になっても、その人らしく住み続けられる地域と時代を切り開いていきたいと思ひます。

## ファンハウス日記

### 認知症グループホーム 「アカシアの家 ファンハウス」の日常

名称は、45歳の時に若年性認知症と診断された方が考案しました。  
ファン(楽しい)ハウス(家)

いよいよスタートしたファンハウスでは、1日の流れが分からず、職員が右往左往しています。これって大事なことで、こちらの都合で入居者さんをコントロールしていないということにもなります。

グループホーム(以下「GH」)で働いたことのあるスタッフも初体験のスタッフもいるので、合同で入職研修を実施しました。認知症の理解や支援方法はもちろん、制度におけるGHの位置づけや、私たちが求められている内容など、様々な視点からGHで働くことについて理解を深めました。

それでも、いざ入居者さんが入り、事業が始まってしまうと職員は何をしたらよいのか分からなくなって、業務を覚えようと必死になってしまいます。でも、開所のこの時期だからこそ、入居者さんのできることやできないことを知ったり、生活の流れを知ったり、そこに沿った支援を展開しないといけないと考えているので、あえて業務基準はまだ作らないでいます。そのおかげか? あるスタッフは入居者さんと関わりつつ、食器片付けをなんとかしようと頑張ってくれていましたが、僕がテレビでやっているテレビ体操を始め、フラッと居なくなって戻ってくるというのまにか入居者さんと一緒に体操していました(笑)

活動やプログラムは強制的にやらせるではなく、興味をもってもらって、心が興味を示したら後は入居者さんは勝手に動いてくれると信じています。入居者さんといつのもまにか一緒に体操できるスタッフも素敵です♪

認知症の方と共に暮らしていく立場で支援をしていく上では、専門的な介護技術も必要ですが、何よりも大切にしたいのは、人として暮らす当たり前の毎日と向き合うことだと思っています。これって本当に大切。

顔馴染みの関係を築きやすい少人数での生活、こだわらせてもらったアイランド型のオープンキッチンもスタッフルームがカウンターになっていて、いつでも入居者さんとお互いに顔が見える工夫も、全ては入居者さんの安心感を得るためのもの♪

言葉では通じあえなくとも、表情や様子から本人たちが何を考え、「どうしたら自分の気持ちを表現できるだろうか?」と探っていけたら素敵です。認知症だから、きっと分からない・できない、ではなくて、どうしたらできるか? どうしたら彼らの声なき声に気づけるか? 真剣に向き合ってくれるスタッフには本当に感謝しています。この姿勢を大切にしたい!!

農業ボランティアの方が協力して下さるおかげで、畑作業も佳境に入ってきました。夏野菜の収穫も全力で楽しみたいと思ひます。  
＜施設長 寺田 慎＞



地域を知ることは、ファンハウスを創り上げる土台になります。職員は、地図を広げて議論が白熱しています。

入居者さんたちは、何といても食事が楽しみです。食べるためには食事づくりから始めます。ミニトマトを切っています。



農業ボランティアさんの指導で農作業に励んでいます。収穫が今から楽しみです。



## 人として生き合う交流の場として

### がんカフェ@高応寺 100回目開催しました

2013年9月に早稲田にあるお寺、「高応寺」で開催してから、あっという間に2022年になりました。毎月20名以上がお寺に来てくださり、9年という年を一緒に重ねてきました。なぜお寺だったのか？という、和顔施(認知症対応型通所介護 ふれあい倶楽部・サテライト事業所)の開設記念講演を住職さんに依頼するために、大場院長とお寺に行ったことがこの始まりです。菜法住職さんも、お寺をひらかれたお寺にしたい、そのような企画なら自分も喜んで協力したいとのことで意気投合したのです。



1回でも参加した方は311名でしたし、しかも100回のうち、数回しか休まずに参加された方もいらっしゃいます。市内はもちろん、草加、八潮、吉川、千葉、春日部、松戸、横浜、筑波、東京などから電車を乗り継いでくるのでありがたいことです。

訪問看護では、がんが進行して動けなくなったり、痛みが強く生活に支障をきたしている方に、生活がしやすいようにケアをするために訪問します。オムツのあて方や、シャワー浴、足浴、むくんだ脚のマッサージ、傾聴、看取りなどなど。家族も当事者もみなさんそれぞれ命について、これからのことについて、一緒に考えることがたくさんあります。カフェはその延長線にあると思っています。

がんの当事者は治療のことや家族のこと、ご遺族はこれからどうやって生きていくか、治療やケアにあたっている医療従事者やその周辺の職業の方は関わりの難しさなどをおしゃべりします。

- ・ある男性は、自分が肺がんになって、この妻を残して死んでいくのが心配だと、夫婦で参加されました。
- ・便に血液が混ざっていた検査結果で、どうしようか悩んでいる参加者に対して、大腸がんかも知れないから検査に行ったほうがいいとみんなで勧めて、がんを早期に発見しました。「がんカフェに参加してがんになったね」というケースでした。
- ・抗がん剤がづらいけど娘のために、できる治療は全てやってみる、体中にがんが転移しながらも頑張っている女性もいました。
- ・霊柩車の運転をされている方は、同乗する家族のお話を聞きながら考えることも多くなり、カフェが臨床傾聴士を目指すきっかけになりました。
- ・ある記者さんは、以前の取材後に娘さんを悪性腫瘍で亡くし、がんカフェの大切さを話してくれました。
- ・最近では地元の司法書士さんががん治療中の方と一緒に参加して、財産や相続について相談にのってくれます。
- ・何となく癒されそうだなと全くがんとは関係がない方もひよこり来ます。

100回目は、私が35年前と一緒に働いていた看護師が舞踊の先生をお連れして、春の踊りを披露してくれました。コロナ禍で踊りを披露する場所がなくなったと話していました。誰でも飛び入り参加が自由な場所、何も話さなくてもいい場所、居心地のいい場所で皆さん笑顔でお寺をあとしにします。

<アカシア訪問看護ステーション 川上 貴子>

事業所 あれこれ

## シン・パティオ始動 —共有・交流・協働の場として—

2003年7月に開所した地域活動支援センターパティオは約19年の歴史とともに、2022年(令和4年)4月1日就労継続支援B型事業所パティオ(略称「就Bパティオ」)として新たなスタートをきりました。

三郷市彦成のみさと団地内、商店街の一角に移転しました。新三郷駅から三愛会総合病院へ向かって徒歩15分のところにあります。

開所当時は荷ほどきや次々と届く家具・備品の設置等に追われバタバタしていましたが、4月中旬あたりからはようやく内職やお弁当が開始され、少しずつパティオの骨格が出来てきました。

1日のスケジュールは主に午前中は内職等の生産作業、午後は各々に好きな過ごし方をする自主活動としています。利用者さんの意思や気持ちを大切にしていますので、無理に何かをやらせるようなことはしません。内職をしている方、麻雀やゲームを楽しんでいる方、おしゃべりで盛り上がっている方、ゆったりゆったりテレビを見て過ごされている方と様々です。とはいえ、就労継続支援 B 型という業務形態である以上、内職には真剣な顔で丁寧に取り組んでいます。内職もいろいろな作業があり、チラシ折りや造花の形状調整・検品、商品の袋詰め等があります。また、新聞紙でバッグを作る仕事もこれから入ってくる予定です。

また地域活動支援センターパティオから引き継いだ様々なイベントは、日ごろのちょっとした息抜きになっています。えが工作(絵を描いたり、工作などをします)やサタデー・パティオ(今の気持ちや感情を振り返る)を始め、最近では古民家カフェでスイーツを食べる！テーブルゲームのお店へ遊びに行く！予定も控えています。

今後も引き続き就 B パティオは様々なイベントや活動を通してワクワクする楽しさを大切にしながら、「働きたい」目標のある人への就労支援にも取り組んでいきます。興味のある方はぜひ一度見学にお越しください。

スタッフ、メンバー一同心よりお待ちしております♪ (主任 佐口 ルミ枝)



#### <利用者の声>

- ・プログラムでのレジン作りが楽しかった。(Tさん)
- ・麻雀ができて楽しい！(Wさん)
- ・生活習慣が整った。楽しいし、パティオに会えてよかった。(Iさん)

## ちよつと いい話



加藤聖耶さんは、遷延性意識障がい(俗にいう植物状態)のため自宅で療養しています。両親の献身的な介護には頭が下がります。

在宅で生活をするために医療・看護・訪問薬剤・介護・リハビリ・マッサージ・福祉用具などで支援しています。

アカシア会では、クリニックふれあい早稲田の往診と相談支援センターパティオの相談・支援での関わりを持っています。

在宅生活 4 年数ヶ月になりますが、生活の様子や支援していただいている方、事業所からも想いを書いていただき、報告集「加藤聖耶 物語 ~心の手~」をつくりました。

部数には限りがありますが、希望者にはデータで送ることができます。

障がい福祉相談支援センターパティオ 長島喜一 宛て

メールアドレス [misato-soudan@grace.ocn.ne.jp](mailto:misato-soudan@grace.ocn.ne.jp)

### 【編集あれや これや】

新年度が始まり1か月半がたちました。各事業所には新人が入り日々職場に慣れたり、仕事を覚えるのに奮闘していることと思います。アカシア会の各事業所には、12名の新しい仲間が加わりましたが、アカシア通信が法人や事業所と新しい仲間の懸け橋の一つになれば良いなと思います。(Na)